ヤコブ・サラジン著『商人階級についての考察』
－若人のための商人(業)教育論－

上　野　　喬

解　題
訳　文

解　題

スイス連邦共和国バーゼル市州に本拠を置き、投資信託業務を主とする私立銀行 Privatbank サラジン銀行 Bank Sarasin の2000年度の営業業績は、純利益１億3100万（1990年1089万200）、総資産35億5690万6000（1990年９億8354万1000）フラン、資本利益率ＲＯＡは12、自己資本利益率ＲＯＥは実に24.２％を記録した。この数値を見る限り当行は10年間に順調に発展したことが明らかとなる(1)。

1841年リゲンバハ J.Riggenbach が開業した信託会社 Handlung は1876年にリゲンバハ社として彼の息子フリードリッヒ Friedrich が引継ぎ、1893年には大きく金融業務に進出していた当社経営権をアルフレド・サラジン A.Sarasin が獲得、1900年社名はサラジン社 A.Sarasin と変更され、1914年に当行は合資会社 Kommanditgesellschaft に改組された。更に第二次世界大戦後も当行は発展し、1970年にチューリッヒ支店を設置、1973年にオレリ銀行 Orelli を吸収し、1978年にはブランクハルト Blankhart やゾメリーSommery 社も当行の傘下に入る。1980年当行はロンドン1990年にゲルンジー（カナダ）そして2000年にはルガノに支店を開設する勢を示した。なお1987年に当行は合資株式会社 Kommandit-Aktingesellschaft に改組している(2)。

金融大国と呼ばれるスイスにおいてサラジン銀行はその経営組織、優秀な投資信託業務により注目を集めている私立銀行である。ではバーゼル市史においても有名なサラジン家はどのような特徴をもち、ここで訳出される著者ヤコブ・サラジン Jakob Sarasin 1742－1802年は如何なる人物だったのか、以下において簡単に跡付けてみよう。

アルプスの水を集めたコンスタンツ（ボーデン）湖を出たラインの水は、シャフハウゼンのライン滝を流れ落ちて一路西に向うが、ライン膝と呼ばれるバーゼルで一気に北海向けに流れを変える。ローマ時代からバーゼルは北欧と西欧を結ぶ交易の要衝であったが、当市がキリスト教の司教領に編入されることで当市は、キリスト教の変改動揺に大きく関わっていく。1431-48年の17年間、当時のキリスト教会の最高首脳者会議『公会議』は当市で開かれた。更に教皇ピオ２世により当市はスイス最初で最古の大学を1460（応仁の乱の５年前）年に開校することが認められた。次いで1501

年当市はスイス盟約同盟 Eidgenossenschaft に参加したのである。

16世紀初頭から激しさを増したキリスト教の教義対立は宗教・反宗教改革更には国民国家形成の動きも加わり全ヨーロッパは大きく動揺する。バーゼル市も深刻な影響を受ける。ローマカトリック教会の忠実な一員であった当市と市参事会は、当市が次第に経済的実力を備えるにつれて、当市を支配するバーゼル司教とキリスト教教義・経済問題をめぐり対立を続けた。結局1521年当市参事会は後者の支配権を獲得し、1521年前者は更に当市内の教会を自己の支配下におく都市教会 Stadtkirche への組織替えを断行した。また大学を擁し、優れた印刷製本業が存続する当市は上記の傾向とともに信教についても寛大であった。ヨーロッパにおいても当市は当時の情報伝達集中地となっていった。即ち人間主義者 Humanisten の一人であるエラスムス・ファン・ロッテルダムにとり当市は彼の第二の故郷となり、ハンスホルバインも当市を訪れた。彼らに次いでキリスト教プロテスタント運動に重要な役割を担ったジャン・カルヴァンも当市に滞在し、主著『キリスト教綱要』初版は1536年当市のＪ・オポーリン書店から発売された(3)。

勿論バーゼルの経済・文化の発展に寄与したのは上記著名人達だけではない。当市経済発展に貢献することになる有能な商人、織物業者や熟練職人がイタリア、フランス、イギリスそして低地地方から自由と安全を求めて当市の門をたたくのである。こうした信教難民 Glaubensflüchtlingen の波は1565-96年と1618-48年と二度押し寄せた。殊に第二波では北フランスから当市を目指した難民の中には絹織物・リボン工業企業家・職人が多い。彼らのもたらした業種は当市では新しく、そのためか当市同職組合規制から自由であった。当市は彼らにとり「駆け込み都市」Asyl であり、彼らこそ向後当市発展のパン種であった(4)。

スイス史ではバーゼルとジュネーヴのサラジン家が有名である。前者サラジン家の始祖はレイノーRégnault 1533－1575年である。カルヴァン（フランス教会）派信者のため彼は北フランスのロートリンゲンを捨て、ポンタムソンとメッツを経てバーゼルに来住した。その息子ギデオン Gedeon 1573－1636年からバーゼル当家の歴史が始まったとみなされる。彼も父親に従いメッツ、マールヒルヒとコールマールで絹織物商人として活躍し1628年バーゼルの市民となった。彼の子孫は織物（絹、リンネル）商人となったが、ハンス・フランツ Hans Franz 1695－1746年は絹リボン製造業者で更に当該商品を扱う商人となってく。本『考察』の著者ヤコブはハンスの次男で父親の事業を継承し1754－1802年間はハンス・フランツ・サラジン社の社友 Teilhaber、1788そして1798年にはスイス盟約同盟の当市代表としてスイス政界で活躍した。彼はまた文芸にも造詣深く彼の「白の館」にはプフェフェル Pfeffel、ラヴァテル Lavater、クリンガー Klinger やレンツ Lenz 等の文人が訪れ、占星術者として当時有名なカリオストロ Cagliostro とは親交があった。ヤコブの息子フェリクス Felix 1771－1839年も父親に従うとともに当市市参事会員で活躍した。こうして当家の

人々は相次いで当市の都市貴族 Stadtherr の一翼を担ったのである。この地位は当家の或る子孫が学芸に秀でるとともに当時未知の熱帯地方探索を行なうことになっても変わらなかった(5)。

『商人階級についての考察』は敬虔なプロテスタント信者であり当時の典型的実業家が、その兄ルカス・サラジン1730-1802年の息子ハンス・フランツ1763－1811年を念頭に置きながら多分1780年代に執筆された商人そして商業論である。訳者の知る限り当『考察』を大きく取上げたのは、バーゼルの化学企業ガイギー社の社史を執筆したバーゼル大学のビュルジン Bürgin 教授である。彼は当『考察』をマックス・ウェーバーが『プロテスタントの倫理と資本主義の精神』において指摘した、改革派キリスト教信者のもった倫理と精神とが典型的に表白されている文献と評価した。ビュルジンは当考察をヨーロッパの中世から近世への移行期即ち産業革命以前に出版されたアルベルティの『家庭論』Trattore della Famiglia 1443、カンティロンの『完全なる商人』Parfait négociant、デフォーの『完全なイギリス商人』The complete English Trademan 1727 に匹敵する経済倫理の書物とみなした。彼の後には17・18世紀当市の商業政策とその担い手とを詳論したレスリン A. Röthlin が前者同様プロテスタント信者の商人・商業教育論として当『考察』にかなりの頁を割いた。訳者も亦こうした傾向を認めながら、積極的にこれから実業界に入っていこうとする青年のための、学生諸君のための商人教育論として思いきった訳出を行なった(6)。

宗教を人生における第一の「使命」Bestimmung とすること、ここにヤコブの『考察』最大の特徴があった。人間はその使用を果すべく神の「道具」Werckzäug として生涯を過さねばならず、こうして「真にして純なイエズスの宗教」die wahre einfältige Religion Jesu に帰依せねばならない。では商業とは何か。それは「生活の全て様々な必需品を分配する」alle die verschiedenen Bedürfnüsse des Lebens ausgetheilt werden 生産的階級の一つであった。たしかに経済的生産における分配機能を明らかにしたものの、彼は更にそれが譲渡利潤の実現により存続することには言及しなかった。しかしながらともすれば胡散臭くみられた商人に彼が最も要求していた資質、それは当『考察』全篇において強調された「誠実」Redlichkeit である。これは商人以前の、人間として必須の具備要件だった。

ヤコブは若人が商人になるための主要かつ基本要件として 1)言語殊にドイツ語人にとり「ラテン語」der lateinischen Sprache の習得、2)「正書字法」die Rechtschreiben を中心とする文字・数字の正しく速く美しい書き方、3)「計算法」Rechnen そして 4)地理学に統計と歴史学とを加味した現代の所謂人文地理学の素養を重視した。これは現在の日本の大学では一般教養学に相当する課題であり、当時のヨーロッパ人が国際人、国際商人となるための基礎課目であったといえる。

ヤコブの『考察』は次に、現代に移せば経済経営或いは商学部における必修課目ともいえる重要

修得要件を列挙する。その順序は、必ずしも筆者の筆の運びではないが、法律殊に自国の民法そして関係外国の商業法規について知識を深めること、更に職業人としての商人にも美学、詩歌、神話、文芸そして美術品についての学殖が求められる。このためには斯界第一人者との交際が全ての点で最良の方法なのであった。

しかしながらヤコブがその必要性を力説したのは、当然のことながら、正確詳細な「記帳」Buch-haltung である。これは計算法とともに商家存続の鍵ともいえる経済的合理性指標なのである。即ちこれから「複式簿記」doppelten Buch-Haltung が発展し、記帳の主目的である「所定期間内の貸借対照表と財産目録とを作成すること」in festgesetzen Zeiten seine Bilanzen u: Inventarien zu machen により商家経営業績評価の基準が定められるのである。更に全ての商品が自分の利得に関わると考えねばならぬ商人にとり、たとえ彼が絹リボン製造業者であれ、木綿製品や他商品に無関心であってはならず絶えず全商品の動向に注意せねばならなかった。

ヤコブは更に「一目おかれる商人のための充全な教育」zur völligen Ausbildung eines würdigen Kaufmanns と呼ばれる６つの必修専門知識修得に筆を進めるが、彼はこれらを「商人の哲学」Philosophie des Kaufmanns と規定する。

まず 1)商取引き方法 die Handlungs Acten は商人である限り、凡ゆる同業者と関わって情報網の形成が必要であり、これには彼らと信頼関係を造らねばならない。2)商取引き変動 Handlungs Revolution に、現代の用語での、年生産物収穫の寡多により生ずる価格そして第一次産業景気変動に注意すること。3)商取引き画期 Handlungs Epochen、これは国家興亡にも関係しているが、筆者によれば中世末期の航海術の改善と地理上（アメリカ大陸）の発見により生じたヨーロッパ経済全体の変動即ち節目が重要であった。これは 2)の場合と同様必ずしも予想が的中するものではないが、しかしこれへの準備は商家経営の動向に影響する。4)商取引き恐慌 Handlungs Chrysen は勿論経済恐慌そのものであり、これへの対応について具体的ではないが「賢明であるならば」wann wir klug seyn wollen これによる打撃の影響は軽少である。5)商取引きゴマカシ Handlungs Räncke とは当業種で頻発する欺瞞行為である。勿論筆者はこれを禁じているが、全商人がこれから免れてはいない。このため商人には世人の軽べつが集中する。この被害に会わぬためには毅然とした経営姿勢が必要であるが、結局当人に備わった「世間的知識、人間観察と経験」Welt Kentnüsse, Menschen Kentnüsse u: Erfahrung 次第である。しかもなお商人に求められるのはその資質と経営姿勢での柔軟性である。さもなければ「ウブ湯ト一緒ニヤヤマデ流ス」das Kind mit dem Bade auszuschütten、つまり顧客や利得を一度に失うのである。こうした五要件に加えて商取引き地域の各種関税、輸出入禁止規定や郵便制度についての「充分な知識」eine genaue Kentnüss も不可欠であった。

これまで概説したヤコブの『考察』の商人教育のための諸要件は、段階的に職業・専門人となる

過程ではいずれも無視しえないものであった。しかし彼は最後に、独自にかつ充実した商家経営を展開しようとする意欲的商人にとり不可欠な5要件を提示する。即ち 1)経営即ち管理 die Pestion od. Verwaltung の重要性、これは商取引きの「魂」Seele であるが、一方で当商家の「能力」Capacitaet 他方では「商取引き資金」Handlungs fond に依っている。このため 2)貨幣運用 die Disposition des Geldtes が重要であり、これを効果的に運用することが有能な商人なのである。この運用以上に重要なのは 3)商品売買 Ein u: Verkauf der Waaren であることは当然であろう。勿論これは 4)他商取引きとの結びつき die Verbindung mit andern Handlungen にも関わる。そして商家経営全体にとり、時計の最重要部品の「ゼンマイ」die Schnell-Feder にも例えられる 5)信用の確保・維持 die Festlegung u: Erhaltung des Credits が最後に力説される。これは全商人、しかも大商人であればある程要求される要件であり、当『考察』で何回もくりかえされる「品行方正と非の打ちどころなしの誠実」Unbescholtene u: unbescheltbare Redlichkeit の賜物である。

生産者と消費者との間に介在し、譲渡利潤を手中にすることが存続の第一要件である商人については、当要件実現のための経営により古今東西に拘らず毀誉褒貶の対象だったことは周知の事であろう。しかもヤコブが力説した諸要件は、中国の古典や日本の三井家の『宗竺遺書』や『家伝記』（1722年）において表現こそ様々であるが同様に記録されている(7)。こうした諸要件を総合しても、蹉跌し易い人生行路を歩くためには一人の人間として「宗教、道徳、賢明、学問そして経験」Religion, Tugend, Weisheit, Wissenschaft u: Erfahrung という一すじの光により照らし導かれることが肝要であった。

ヤコブ・サラジンの『考察』は訳者がブルジン教授の大著ガイギー社史を繙いて以来興味ある文献であった。しかしながら以下の原著1頁からも明らかな様に、17・18世紀の手書きのスイスドイツ語に不慣れな訳者にとり、これへの接近は無理であった。漸く1998年にフィリップ・サラジン博士が訳者にそれのコピーを許され、2001年夏にバーゼル大学のハーガ文学博士がそれを印刷活字に転写してくれたことでこれを訳出することになった。東洋大学経済学部の三浦安子教授は訳者の原稿に全面的に朱を入れて下さった。訳文中の〈　〉は訳者が原著欠落部を補ったものである。当訳文はあくまでも関係学部の学生諸君を念頭におき、逐語訳ならぬ自由訳に近いものとなった。勿論著者の本意は曲げてはいないが、「ほん訳者は裏切り者」Traduttore è traditore」の非難からは遠ざかりたいと願っている。

注

(1) Bank Sarasin & Cie.,Geschäftsbericht 1990, 5f.ibid.,2000, 4.11f.

(2) Neue Zürcher Zeitung,no.200. 30.VIII.1991.

(3) M.Alioth et al.,Basler Stadtgeschichte,Basel 1981, 35-46. 佐藤るみ子、「中世におけるバーゼル市参事会の推移に関して」（純心女子短期大学紀要第17集）1982, 152ff、同、「中世後期ヨーロッパ交易におけるバーゼルの経済圏(1)」（同短期大学紀要第18集）1983, 191-4、渡辺信夫、『カルヴァン』1984, 47-50.

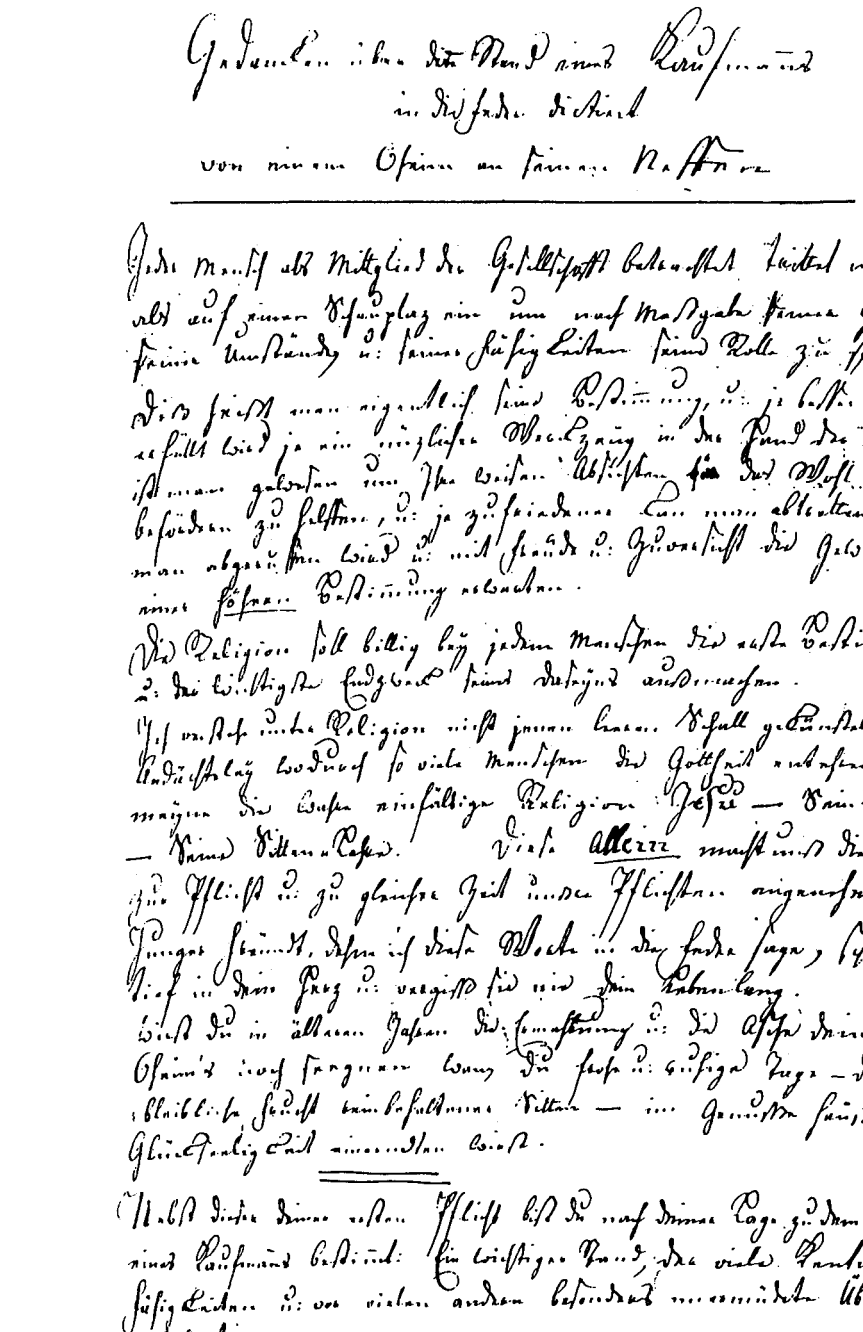
(4) H.K.Handschin,Die Ökonomik der Betriebs-Formen in der Basler Seidenband-Industrie,Liestal 1929, 7f.

(5) H.Joneli,Gedeon Sarasin und seiner Nachkommen,Basel 1928, 13-24.Historisch-Biographisches Lexikon der Schweiz,bnd.,VI,Neuenburg 1931. 訳者は当解題作成中サラジン家系史研究には不可欠の『サラジン家の歴史』Die Geschichte der Famiglie Sarasin,2 vol.,Basel 1918 を使うことが出来なかった。いずれ機会を得て当解題を書き直す予定である。

(6) A.Bürgin,Geschichte des Geigy-Unternehmens von 1758 bis 1939, Basel 1958, 37ff. N.Röthlin,Die Basler Handelspolitik und deren Träger in der zweiten Hälfte des 17.und im 18.Jahrhundert,Basel 1986, 147-151. マックス・ヴェーバー著大塚久雄訳、『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、東京2001, 72-80.

(7) 溝口雄三他編、『中国思想文化事典』、東京1989, 114. 財団法人三井文庫、『三井事業史一資料篇』、東京、1973, Iff. 13. 16f.

原著(1)頁



Gedanken über den Stand eines Kaufmanns
in Hinsicht der Stadt
von einem Ehrenmann an seinen Neffen

1

Jeder Mensch als Mitglied der Gesellschaft bekommt Talent und Beruf
als auf seinen Schauplatz um nach Maßgabe seines Gebiets
seiner Umstände u: seiner Fähigkeiten seine Rolle zu spielen.
Dies heißt man eigentlich seine Bestimmung, u: je besser diese
erfüllt wird ja um ähnliche Verleihung in der Hand der Vorsehung
ist man gewohnt um ihre weisen Absichten für das Wohl des Ganzen
befördern zu helfen, u: je zufriedener kann man alsdann
man abgerufen wird u: mit Freude u: Zuversicht die Gewißheit
einer höhern Bestimmung erwarten.

Die Religion soll billig bey jedem Menschen die erste Bestimmung
u: die wichtigste Endzweck seines Daseyns ausmachen.
Ich verstehe unter Religion nicht jenen kaum scheinbaren
Endzweck wodurch so viele Menschen der Gottheit entbehren: Ich
meyne die reine einfältige Religion Jesu — Sein Beyspiel
— seine Lehren u. Gesetze. Diese allerzeit muß uns die Tugend
zur Pflicht u: zu ähnlicher Zeit unsere Pflichten angenehm!
Junger Freund, schon in dieser Woche u: die folgende sagen, scheinbar sich
Dich in dein Herz u: vergißt sich wie dein Vaterland. Dann
wirst du in allen Fächern die Fähigkeit u: die Achtung deiner
Oheim's noch stärker wenn du frey u: gesitzig bey — die immer
bleibende Freude beim Bewußtseyn deiner Pflichten — im gemeinen Leben
Glückseeligkeit einerndten wirst.

Nach dieser deiner ersten Pflicht bist du nach deiner Lage zu dem Stande
eines Kaufmanns bestimmt: ein wichtiger Stand, der viele Kenntnisse
Fähigkeiten u: von vielen andern besonders unermüdete Übung
erfordert.
Wie wollen das hauptsächlichste was ein Kaufmann können, ausüben
soll u: lassen sollen in einer kurzen Abhandlung miteinander
durchgehen.

Mösser

訳　文

原著(1)頁

商人階級についての考察：伯父によって甥ハンス・フランツ・サラジンのために筆述された

（バーゼル国立文書館、PA212F19）

伯父によって甥のために筆述された商人階級についての考察

社会構成員である凡ゆる人間は、彼の出自、境遇と才能に応じてその役割を見つけるため、舞台に登場するかのように生れてくるのです。これこそまさしく彼の使命と呼ばれ、この使命がよりよく果されれば果される程、神の手中の益々有用な道具となり、全体の福祉向上を目ざす彼の賢明な意図を進めることに役立ち、またあの世に召される時にも益々満ち足りてこの世を去り、喜びと確信とをもってより高い使命を期待することにもなるでしょう。

宗教は凡ゆる人間にとり、たしかに第一の使命であり、彼の存在の最も重要な究極の目的なのです。私にとり宗教とは、多くの人間が神を冒涜するようなそのような空虚な造りのものの信心ではありません。私にとりそれは真にして純なイエズスの宗教―彼の模範－彼の律法と教えなのです。これのみが我々に徳を義務となし、同時に我々の義務を心地よいものにするのです。若い友よ、こうして私はこの言葉を書きとめるのだから、お前もそれを心深く書き込み、お前の一生の間それをずっと忘れてはなりません。そうすればお前は中年になって―堅持した律法が必ずや〈もたらす〉成果である―快適で静穏な日々に、お前の伯父の遺した訓戒と遺骨になおも感謝することでしょう。

このお前の第一の義務に並んで、お前の態度次第で、お前は商人階級に属すように決められるのです。これは重要な階級であり、そこでは多くの見識と才能そして多くの他のものに先んじて、殊にあきることのない実行が求められるのです。

商人は何を学び、営み、行ないかつ捨てるべきかの最も重要なことを、我々は短い論説の中で合わせ検討しましょう。

(2)

相当な年月と多くの経験から集められた私の見識と洞察とが、これまではお前が全く誤解していた、この商人階級に入るための努力と労苦とを軽くし、いつの日にか名誉、本物の尊敬それに全幅の信頼を楽しみながら、この中で生きてやろうということになれば宜しいですね。

真先にそもそも商人とは何かを詳しくみてみましょう。

商人とは公の信用と信頼に助けられながら、生活の全て様々な必需品を分配する生産的階級の一部門なのであり、このために彼自らの金、銀の価値も役を果すのです。だからここでは非のうちどころない誠実さが殊に欠かせません。

この階級は様々な高・低の階層に分かれ、凡ゆるこの階層の人には彼特有の見識が求められ、この見識が多様化すればするほど、人生行路において益々有為有能なものになっていくのです。

小売商の低い階層から出て、商人のより高い階級に生きようとする人にとり、以下の主な知識は明らかに必要でしょう。

真先に言葉が、しかも最も多く商取引きする国での、例えばドイツ人にとっては、フランス語やイタリア語が欠かせません。

これらの言葉は基本から知らねばならず、話し言葉と同じく殊に書き言葉においても、まさに彼の母国語であるかのように完全に熟達するために、努力せねばなりません。何といってもこの母国語について徹底した特別な勉強は必要であり、母国語に不得手であることは大変な恥でしょうね。

(3)

凡ゆる他国民に先んじて殊にドイツ人が、ラテン語を全然知らないことは決して許せません。ラテン語は我々にとり凡ゆる他の言葉に近づく便利な鍵であるばかりでなく、一旦我々がそれを会得すれば、法律や全てこれに依存している書状や文書においても商人はかなりのものを根本的に理解できるのであり、ましてや緊急時には自分でラテン語の言葉や言いまわしを作りらねばならず、こうして自分は無学モノではないことをぜひとも納得してもらわねばならないのです。

更に殆んど凡ゆる言葉の正書字法は、直接にラテン語の正確な知識に依存しており、正書字法こそ商人の重要事項であり、粗野でこれができない凡ゆる人は、まさにまっとうな教育をうけていない無学な人間とみなされ、秩序と評判とをそれなりに気にする最下級の小売商人でさえも、そんな若者や召使は雇わないでしょう。

正書字法に直ぐに続いて来るのが、美しく速くそしてきちんとした書き方です。手書は勿論美しければ美しい程宜しいのです。美しい手書きは上品で快活な人にも例えられ、無作法な習慣もこれには太刀打ちできず、また他人の好意を引き出す最強の紹介状の一つとなりましょう。

速記法は、小さな場所から営業を始めねばならぬ商人にとりとても必要不可欠のものであり、しかもこれに秩序と誠実とが同時に結びつくなら、極めて有利な資質となりましょう。特に線書きは美しく、字体も同じくそろっていることです。

ばらばらな手書きは不快で、殊に文通には極めて不適であること、これは恰も散漫な書き方が凡

ゆる人に不快であるのと同じことなのであり、逆に〈短い〉手書きには凡ゆる人が好んで目を通すでしょうし、たしかに多少なりとも、読む前に書状の内容に好意的評価を付け加えるのです。

(4)

書き方のすぐあとに続くのが計算法です。

この計算法に大変熟練していることは、商人の繁栄と利得にとり最も重要な結果をもたらします。簡単な算術の後には為替手形勘定、精算、銭貨学、金銀についての知識が続き、これらは商人階級に巧みに出世するためはなくてはならぬ真の要件なのです。

さて商人階級をめざしてがんばる若い人間がさしあたっての見識を、完全なものにしたならば、彼は更に次の点をも特に固めねばなりません。即ち地理学に統計と歴史とを結びつけることです。地理学とは我々の住む地球についての知識であり、即ち大陸それに含まれる国家、それを貫流する河川、そこに横たわる都市や町村についての知識なのです。凡ゆる教養ある人間にはこれらの全体的見識が必要であり、殊に地球の半分を自分の祖国ともみなさねばならぬ商人にはなおさらのことなのです。でもそれらが支配、言葉、習慣、産物、商業部門の知識や様々な民族の全体的関係と同時に結びつけられてなければ、彼にはあまり役に立たないでしょうし、結びつけることこそ統計学と呼ばれるものなのです。

しかもこれとて、どのような様々な出来事が全時代を通じてここかしこに伝わり、いかにしてこの民族は繁栄しかの民族は衰退し、いかにして様々な国家が出現し、どのような結びつきで彼らは共存しているのか、どのような戦争がひきおこされ、いかなる結果をもたらしたのか、ここかしこでどれ程戦争は恐れられ、或いは平和が求められているのかを、同時に学ばぬ限り充全ではないのです。

(5)

これら全ては歴史を通して学ぶのですが、勿論寝てできることではなく、史書や紀行文をくりかえし読むことで、この事柄にかなり強くなることができるのです。

さてこれが堂々と商人階級に入っていくためにさしあたり必要な修練でしょう。

これら全ての修練に際しては、身体を健全に心情を快活にしておくため、適当な期間にしかるべき肉体訓練を怠ってはなりません。

さて今や商人のための高等学問が続きます。

最小から最大級の商人全てにとり、全にして第一番の学問は記帳です。即ち全ての点での最も詳細な厳密さが絶対に必要であり、その次に美しい字体、明確な計算、規則通りの仕分けが、そしてなかんずく的確な判断が、殊にそれらを結びつけて複式簿記を作るためにも必要なのです。

商人は最大から最小までの商業帳簿を、彼の職業の聖域更には職業の魂とみなさねばなりません。何事であれ彼の手を素通りさせてはならず、それはすぐに記帳しましょう。そうすれば100年の後にでも彼の商取引きはまるで、その初めの日のように苦もなく調べ出せるのです。

どんな控帳であれ、商人にとり記帳において最も厳密な秩序を保つためには、こまかすぎたり無意味すぎるということは決してないのであり、どんな営業であれ、商人にとり彼の帳簿類に最も詳しく書ききれない程おおまかすぎたり、拡げすぎてもいけません。

商取引き帳簿類はまたどんな時にでも、宣誓して提示できる程に厳密でなければならず、この点に関してほんの少しでもだらしなかったり怠慢を許す商人こそ死ンジマエというものでしょう。

(6)

更に記帳の主な業務は、全経営管理の最も詳細な状態に逐一目を通すために、所定期間内の貸借対照表と財産目録とを作成することなのです。

不正直者かバチアタリの怠け者だけが、これのきちんとした処理が常に有益であり、かつこれについての手抜きこそ間違いなく数千もの懸念された没落の源になったのにも拘らず、この大切な仕事を怠って平気でいるのです。

記帳の次に来るのは書簡文体ですが、書簡文体の知識も凡ゆる商人には毎日のパン同様に必須のものですから、一般的なきまりを若干のべるだけにします。ところで凡ゆる人は自分の文体を自分の考えと能力、そして言語知識に合わせて構成すべきであり、他人の文体を自分の文体として鼻にかけるが如きは笑止千万なのです。

作法通りの、順序正しくかつ明晰であることが、良い書簡文体のためのおおよその主な要件ですが、しかしそこでの大変な技は、極めて内容濃くかつできるだけ短くすることです。短いこと程必要なことはなく、また全ての難解冗長をさけること、しかも少言で多意を語る程内容濃いことはありません。この目的に達するには、単なる言語知識だけではなくセンスも必要なのです。書簡文体を確たるものにするには熟慮、模範文の練習ととりわけ良書を読むことにまさるものはありません。

全ての覚え書も書簡文体に続いて商業的見識に属しており、ここでも理性による正しい判断が主に筆を進ませるのです。

これまで現われた商人の覚え書類全部の写しや慣用語を蒐集し始めるのに早すぎるということはなく、いかなる機会即ちたとえ具合が悪くとも、これについての研修を怠ってはなりません。何故

なら一旦それを用いねばならぬ時が来たならば、熟練していないのならもう一般的には、ヤッツケ技しか使えませんからね。

(7)

ここでも法律の若干の知識は絶対に必要なのですし、記憶力が弱まるにつれてますますこの用心深さはなくてならないものなのです。

本来凡ゆる正義の中心にその元素が確固として根づいているべき自然法について、我々は更にその理論的秩序についても決して無知であってはなりません。即ち我々が祖国の法律についても、こうした仕方で理解することを学ぶべきであり、そうすれば少なくとも毎日の出来事について無学を恥じることなく、被害をも恐れることはないのです。

更に我々はこの商取引き実践のために、最も重要な商取引き地の商業法、様々な為替手形法、そして最後に我々が商取引きする凡ゆる土地の法律についての若干の知識もなくてはなりません。

これらについては以前の重要事例を丹念に検討し、有能な商人の営業について注意深く聞くことにより学習し、抜けめないメモ取りによりしっかりと彼の記憶の中にとじ込めましょう。

次に凡ゆる商人にとり絶対になくてはならぬ商品についての全般的知識が続きます。この点について幅広く精通していればいる程商取引き全般について益々正確な考えをもつようになるのです。

たとえ我々の視野と見識とを大きくしかつ教示するものでなくとも、ある商品に余りにも無知であったりそれが我々の本務に全く無関係だとみなしてはなりません。

凡ゆる商取引き部門は他の部門と手をつなぎあっており、夫々は無数の仕方で関わりあっているのです。

こうした観察が役に立つ例をここで紹介しましょう。

(8)

絹織物業者は木綿糸の安・高値に決して無関心であってはならない、これを銘記せねばなりません。たしかにそれらは彼の商取引き部門と殆んど結びつかないと考えがちでしょうね。でもどうしてどうして、絹織物消費へのそれの影響は重大かつ有効なのです。木綿糸が安ければ木綿布もそれなりに安く造られ、結局絹織物需要は確実にへるのです。これとは逆に木綿糸が高くなれば絹物需要はふえ、結局これによりふえない木綿布が相対的に絹織物をふやすのです。数千のこうした例は毎日我々の眼前に現われ、新米の商人には丹念な検討により彼の見識の正しさを証明する機会を与えるのです。

美学についても、同輩の中から抜きんでようとの明確な気構えをもつ商人は、決して門外漢であってはなりません。これらがなければ、人生行路においてどこに話し方の優雅さ、機知がとどまっているのでしょうか。

勿論多すぎる程の時間をこれにあててはなりませんが、かといって美学が我々に求め、かつその中で造詣を深めることのできる僅かな時間を惜しんでもなりませんね。

そもそも私にとり美学とは何んでしょう。その第一は凡ゆる言葉の詩です。詩人をよく理解できぬ人に、当然詩は彼の力とはなりませんし、言葉の知識がなかったならば我々の啓蒙時代にあっては、上層の商人であれ、文章と同じく話し方でもうまくゆかず、また同じく交際せねばならぬ彼の同輩やより上流の人々とも、うまくやってはいけません。

次に来るのは神話即ち神義学で、これなしに文芸家は理解できません。

更に文芸の若干の知識即ち機知の文章が続きます。

最後に来るのが美術作品についての相当な見識です。

ここでの最良の忠告は、ともかく最上かつ最高学識の人間と交際することです。この交誼により日毎に教養は拡がるのです。

(9)

正直で功績豊かな人々との交誼は、意図せずかつ努めなくとも我々をよりよい人間にする、これは最も明らかな真理の一つです。その際誠実かつ素直な心をもつ〈なら〉善い事を我々は学べ、我々の日常の家業を取り仕切ることができるのです。あたかも我々には羽根が生えているかのように、高く飛ぼうと思ってはならず、凡ゆる階級の人間と秩序に我々が負うているとの畏敬の念をも忘れてはなりません。そうすればこの教えこそ、必ずや我々を最高の地位に引上げることになるのです。

更にお前が頭角を現わしたいなら、私はなお勉強について語りましょう。それは博物学と農学なのです。この二つとも商取引きに無数の仕方で関わっており、しかも商取引き自体にかなりの影響を与えるため、これらの見識なしには基本的商品知識も生活必需品の正確な判断もできない程のなのです。

数学についてもここでいささか話さねばならないのでしょうが、これの様々な部分は勿論第一の基礎知識に、次いでその他は美術の見識に属していることは納得できませんか。

最後に一目おかれる商人のための充全な教育にはなお、世古にたけた商取引きの見識が相当集められてなければなりません。それらは

1)商取引き方法

2)商取引き変動

3)商取引き画期

4)商取引き恐慌そして

5)商取引きゴマカシについての見識です。

様々な商取引き方法は、この知識なくして商人界では世間なみの充全さは考えられないがために、知ることが必要なのです。

絹織物商人である私は、当然のことながら隣人の薬種商、香料商、羊毛商人、銀行業者等々との関わりを知らねばなりません。即ち私は彼らと一緒に一つのどんな商圏をもつか、彼らとどんな取り引きをするか、また全体的に結びつきながら私の場所で何を立派に行なっていけるかを学ぶのです。

(10)

更に私は大商人と小商人との、はては最下級の小売商人との間の関わりを知らねばなりません。凡ゆる人と彼らの状況に応じて商取引きし、凡ゆる人と彼らの考え方や彼らの言葉で話し、また全体の福利に資すための私の資力も必要とされるように、凡ゆる人と信頼し合わねばなりません。

商取引き変動は、決まった期間の、たいていの場合は凡ゆる年の循環のなかの、凡ゆる商取引きに際して起ります。例えば全地球の凡ゆる絹織物商人は、最初の夏月の順・不順な天候が蚕の成育に与える良・不良の影響により左右されます。蚕は強靭な生糸で地球上の所謂高貴な人をくるみ、そのための当然の礼としてそれの命は煮湯の中で失われるのです。

生糸収穫は充分か中位か或いは不充分だったかを、我々は毎年注視せねばなりません。毎年のある重要な時点に経済的好・不況が数千回も毎年到来するのであり、これにより計りしれない利・不利益が毎年この取引き界に流れ込むのです。

このようにして凡ゆる商取引き部門で変動が起り、その都度商取引き全体は深甚な影響をうけるのです。即ちそれにより為替手形は騰落し、それにより貨幣の過不足が到来し、それによりまさしく商取引き全体そして全ての国家の信用期間の長短が起るのです。この変動の作用についてよく知れば知る程、やり手の商人との過分な尊称が益々ふさわしくなり、彼自身と彼一族の人生の幾千の不慮事に際してよりよく方策を講じかつ難関をのりこえることができるのです。

(11)

商取引き画期は情報や産業の富の増減により現われますが、更にその逆からも、即ち様々な国家の怠慢や崩壊によっても現われ、更にそれは戦争や掠奪によっても現われるのです。商取引き業界がかつて経験した最も重要な出来事は、おそらく航海術の改善とアメリカ発見でした。戦争や重大な国家改革であれ、世界の国々のそうした拡大や縮小の節目なしに、それらはたやすく現われないのです。或時は貨幣価値騰落の循環、或時はこれやあれやの商取引き部門の発展停滞、或時は全ての都市と国民の信用の拡大収縮が節目なのです。これらの事態の程度に応じて我々は注意せねばなりませんが、我々の予見によっても、我々の力でなりたつ人間的幸福のうつろい易さを、阻止できる程、我々の見識は多くはないのです。

同じく重要なのは、一部は商取引き画期と同じ源から現われる商取引き恐慌であり、しかしその大部分は最も重要な商取引き財の凶・豊作から現われます。我々が賢明であるならば、我々の家産的幸福の基礎を破滅的にゆるがしかねないこの恐慌で不意打ちをくらうことはありえないし、また我々自身の商圏外ではあれ、早かれ遅かれまた直・間接を問わず、これのために我々が苦しむことはないにせよ、こうした出来事に無関心であってはなりません。

さて残念ながらなお商取引きゴマカシが続くのです。

我々はこの言葉そのものことをしてはいけません。しかしながらそれは人間にとり恥かしいのですが、ともかく商業界では頻発するため、我々がそれらの有害な影響から免れるためにもそれを知らねばなりません。

私は商取引きゴマカシとは、法律がそれを充分に処罰するに足りる権限をもたないので、商業において公の信義や安全に隠れて行なわれる凡ゆる不正商取引きを言うのです。商人が彼の実力以上のことを故意に約束し、劣悪商品を優良商品と宣伝し、商品或いは為替手形の売買で他人の信用を乱用し、ニセ情報を故意に真実と称し、不相応の信用を得ようとして不正手段を用い、金ピカの借物で飾りたて、またワルい冗談で他人を、早かれ遅かれついには彼と彼一族をも没落させずにはおかぬ所行、これがゴマカシなのです。

私は謹厳な道徳家が、この非行をまっとうで賞さんに価する名前でくるむことも良く知っておりますし、高尚で善良な人間はともかく、多くの人によってなされ商人階級が我慢せねばならぬ軽べつは大部分これから出ていること、でもそれは商人階級でも多くの他の階級でも、収穫前に小麦をえり分けることができないからなのです。

(12)

しかし我々はともかくも一つの世界に住み、全ての階級は殆んど正直者・不正直者を選ぶことなく一つの輪の中で共存せねばなりませんから、不正には毅然たる態度を示し、難詰しかつ追及するのに充分な勇気と、詐欺や強請に会わずに我々の商取引きを成立させるに充分な賢さをも備えること、そうすれば馬鹿者やヨクバリと無駄な争いをせずとも、我々は目前に正道を敷くことができるのです。さて商取引きゴマカシについてはわかりましたが、ではどのようにしてそれを避けるのを学ぶのか。これは至極自然な問いかけですね。

そう、それには世間的知恵、人間観察と経験が必要ですね。我々が札つきのワルと事をかまえるなら所定の規則を挙げこらしめるのは難しくありません。しかしながら商取引き人自身は極めて頻繁に、全ての本分や全ての規則から外れても、よもや不正は告発されはすまいと見くびり、あれやこれやの事で多少の差はともあれ、上述した商取引きゴマカシを昔も今も、他人はまっとうな怒りを陽の下に公にさらしはせぬだろうとして行うのです。勿論そうした非行は、本物の邪悪な心よりも無知、功名心、私欲そして宗教や習慣の誤解からも頻発するのです。

しばしば手広い業務に熱心な奉公人や部下も、彼らの賃貸借契約をくだらぬ処理でまずくしてしまうことがあります。だから余りにも卑屈か余りにも強情ぱりのため、所謂ウブ湯ト一緒ニヤヤマデ流スことにならぬためにも、一方では毅然とし他方では辛抱強くふるまわねばなりません。

(13)

この世は全ての不法に対して我々は公正を守りかつ買収されてはならない処、正直者や品行方正の人は我々の全き尊敬を受けても当然の処なのですが、しかしワルには我々が彼らを常にワルときめつけていることを知られてはなりません。何故なら我々の職業は世界改良家ではありえないし、我々が言葉や書いたもので札つきのワルをまっとうな人に更生させる前に、彼についてまっとうな判断をしたことによる被害は数千回も我々にふりかかるでしょう。

世古にたけた商取引きのこの５点について、委曲をつくさずとも大型本に書きまとめることもできるのですが、それを私は商人哲学と名づけましょう。それは学識と有益の宝庫でもありますが、一目おかれる有能な商人として全面的に尊敬されながら、有益かつ快活に生きるためには決して多すぎるものではないのです。

新米商人の実践学問にはなおも一つが加わるのです。即ち全て商取引き国の輸入・通過禁止関税についての充分な知識、同じく郵便制度の整備・連絡、水・陸両上の積荷、更には同じく全般的な商取引きに有・不利となる促進・障害物等です。さて今や商人たるべき理論と実践的見識とが充分に備わった私の回想に我々は忠実であるならば、もう彼は商人として誕生直前にあるのです。しか

し彼は今や独りで商取引きを行ない、彼の集めた見識からの成果を享受したいならば、彼の階級の最後で最も重要な義務と条件とを知ってもらいましょう。勿論これとて、彼がこれまで関わった事柄の予習により出来上っていればいる程とても簡単なのです。

商人が今や彼の階級の求める全て必要な見識を自分で会得したなら、はたして彼独自の商取引きの独特の仕方は、それだけで続きうるかどうかを考えるべきでしょう。これは彼の得意な主題はさておいても、彼が外国の商取引きでとてもうまく営業を行なっていけると考えることよりも、はるかに難しいのです。

(14)

これの実際の執行には殊に次の５点が必要です。

Ａ）経営即ち管理

Ｂ）貨幣運用

Ｃ）商品売買

Ｄ）他商取引きとの結びつき

Ｅ）信用の確保・維持

Ａ）経営即ち管理は商取引きの魂であり、仕事を正しく行なうには我々の諸力の独自の範囲を知らねばなりません。

これらは一方で我々の能力に他方で我々の商取引き資金によっているのです。

さて我々は、どれ程広くこの我々の財産を働かせることができるのかを熟慮せねばならず、我々の判断と手持ち貨幣が及ぶ以上に営業を拡げてはなりません。

Ｂ）貨幣運用は有能な商人の二番目の傑作なのです。彼は彼の貨幣の運用につき極度に慎重な余りそれを無為に投資したり、いわんや有害な方法で少なからず隠匿してもなりません。何故ならこうしたやり方は、優に千件にも達する最有力の商家転覆の最初の動機なのです。

貨幣運用については、更に為替手形業務の、それら全ての関連と履行の重要かつ秩序ある知識が必要です。この学問なしでは必ずやってくる災害をさけることができないからです。

Ｃ）商品売買についての卓越した才能こそ議論の余地なく、商人にとり絶対に不可欠のものです。しかしこの小論説の狭い場所では、この事で必要とされることを詳説することができませんから、絹リボン製造業者の義務と見識について一緒に検討する他の機会にゆずりましょう。

Ｄ）他商取引きとの結びつきもまた、彼の営業の舵取りを行なわねばならぬ人にとり、最高に必要なのです。これについては確かに話しをしましたが、この点で決してゴマカされず更にこの

点での手ぬかりにより不快と被害とが首かせとならぬためにも、特別の洞察と観察心とが必要なのです。

E）最後に来るのが信用の確保・維持です。信用は商取引きという時計全体が回転するためのゼンマイなのです。これが、このゼンマイが壊れれば機械全体はすぐに止まってしまいます。

トン単位の貨幣所有者であれ信用を少しも欠かしてはならないこと、これは全ての富を背負い場所から場所を回る最下級の小売商に勝るとも劣らず、なおのこと欠かしてはならないのです。

私は私の言葉、署名、為替手形により信頼されているのであり、さもなければ金貨満杯の箱を持ったとて私には長期間の商取引きはできないのです。

(15)

品行方正と非のうちどころなしの誠実、貴重な人生におけるこの掛け替えなしの同伴者、我々と墓の向う側までも付きあうこの唯一の財産は、この世では勿論我々の第一の支えでなければなりませんし、熟練と我々の能力とをしかるべく創りだして、我々の助けに役立てねばならず、賢さからは一旦獲得した信頼は確保すべきであることを我々は学ばねばなりません。

さて私の友よ、お前は私の経験から与えることのできるものをいまや手に入れました。これをお前が好きなように利用しなさい。

私はお前に多くの事を、いまのお前の考えや洞察を越える事をのべたことは充分承知しています。しかしながらこれらがふえればふえる程、見識と学問がなければ人生行路とは暗くてつまずき易い途なのであり、その途上では一すじの光が――宗教、道徳、賢明、学問更には経験以外には、我々を照らし導くことのできない光が、是が非でも必要であることをお前は益々理解するようになるでしょう。

終り。

（2002年１月７日受理）